

NITSカフェ報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関：京都市教育委員会 連携機関：京都教育大学大学院連合教職実践研究科 京都市立下京中学校
	セミナー名：【NITSカフェ in KYOTO 2020】 主タイトル：A Lの具体的実践を学ぶ 副タイトル：学び合いを通して主体性を育成する授業改革
	開催日時：令和3年3月6日 13時30分～16時30分 開催場所：京都市立下京中学校 参加者：教員75名，教育委員会3名，大学関係者等6名 計84名

テーマ：

本セミナーでは、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業改善の研究交流を進めている4校（下京中・新香山中・辰口中・福井アクティブ・ラーニング研究会）が、互いの実践を交流し自校の研究に落とし込むことによって、効果的な資質・能力の育成につなげる実践の一助とし、また、他の先進校の実践に学ぶことにより、一層効果的な具体的実践を目指しテーマを設定した。

内容：

本懇談会はコロナ禍を考慮し、オンライン形式による2部構成で実施した。第1部は京都市立下京中学校、福井アクティブ・ラーニング研究会、岡崎市立新香山中学校・能美市立辰口中学校との実践発表を行った。第2部は、調布市立調布中学校の思考ツール・振り返りを含めたカリキュラム・マネジメントを取り入れた事例をもとに、効果的な学び合いを取り入れた授業実践についての研修を行った。

第1部

○福井アクティブ・ラーニング研究会の発表内容

福井市の中学校の管理職・教員の自主研修会についての報告であった。授業改善に向けて、先進校の研究事例を参考にしながら、自校の研究につなげるネットワークづくりについての成果と課題の報告があり、市全域での授業力向上に向けて参考になる実践であった。

○岡崎市立新香山中学校の発表内容

GIGA 端末を早々に整備し、効果的に授業で活用していることや、総合的な学習を中心とする研究について報告された。

○能美市立辰口中学校の発表内容

授業改善に向けた校内研修を継続し、主体的・対話的で深い学びについての理解を深め、全教職員が一丸となって研究に取り組む様子が報告された。

○京都市立下京中学校の発表内容

授業改善に向け①単元デザイン、授業デザイン②コンテンツベース③コンピテンシベース、3つの視点によるカリキュラム・マネジメントについての研究報告であった。これまでの主体的・対話的で深い学びの研究をもとに、自教科だけでなく他教科との横断的な学びによって、生きて働く知識・技能の習得が進んでいる成果や、どのように資質・能力の育成につなげていくかという課題についての発表であった。

第2部

調布市立調布中学校の「学び合いを通して主体的で意欲的に学習する生徒の育成」の発表に関して研修を行った。真面目だが主体性に欠ける生徒の課題解決のために、これまでのインプット中心の授業を、生徒のアウトプットに重点をおいた授業に改善した取組について報告があり、育成を目指す資質・能力を明確にし、教科の特性を生かした実践により、生徒の姿に変容が見られるようになったことが発表された。また、校内研究において授業改善、カリキュラム・マネジメントの工夫等のチーム編成を行い、それぞれに取組を進めることにより、教職員の意識にも変化が表れ、授業の話題が職員室で多くなり、より改善が進むことが報告された。報告後、参加者や研修講師の意見交流を通して、管理職の強いリーダーシップが必要なことについても学ぶことができた。

成果：

- ・オンライン形式での研修会となったため、全国各地から多くの参加者があった。時間の制約によりグループ討議等ができなかったが、多くの参加者が様々な実践にふれ、有意義な研修会となった。
- ・研修講師の田村学教授〈國學院大學〉から、各校・団体の研究についての講評と、新学習指導要領の実施に向けた学習評価についての講演を聞き、参加者は研究や評価についての悩みや不安の解決策を見出すことができたようだった。
- ・次年度からの中学校での新学習指導要領の全面実施に向けた、指導と評価の両面についての研修となり、参加者どうしがつながり、互いに意欲を高めることができた時間となった。

アイデアや工夫したこと：

- ・各校、団体が重視している研究について詳しい説明が行われ、主体的・対話的で深い学びを実践するに当たってのポイントが整理できる内容であった。
- ・田村学教授の助言が適宜入り、参加者の疑問等がクリアになるよう時間設定に留意した。
- ・オンライン形式を生かし、チャット機能で質問や意見を全体で共有するとともに、研修中の事務的な連絡を迅速に行うことができた。また、画面共有することにより、分かりやすい説明や画像提示をすることができた。

<写真・図など>

* オンライン形式のため、写真無し